

パソコンの利用環境

本学の演習室事情

本学には、多数のパソコンを設置した演習室がいくつかあります。学生が個人で購入するには高価な専用ソフトを使った授業や、全員が一定のパソコン環境で演習を行う必要のある授業などを行うことが第1の目的です。

学生が自由に個人で利用できるのは授業の空き時間のみですが、演習室を利用する授業が多いため、必ずしも十分に確保できません。

そのかわり、本学では無線LANによるキャンパスネットワーク環境が、ほとんどすべての校舎で利用できるため、自分のパソコンを持っていれば、いつでも自由に大学のネットワークを利用し、インターネット環境を使うことができます。

推奨パソコン

学部によっては常にパソコンを必携して受けなければならない授業もあるので、ノート型パソコンを1台は持っているといいでしょう。また、必携でない学部でも所属するゼミによってはパソコンの利用が必須であったり、空いた時間にレポートや授業準備をするために、パソコンを携帯する必要性は増すばかりです。

本学では推奨パソコンとして、ノート型で下記のメリットがある機種を選んでいきます。

- (1) 大学に持ってきて授業で利用したり、レポートを書いたり、調査やデータ分析をするために使いやすい
- (2) 最低4年間使用するのに十分な性能を持っている
- (3) 軽くて持ち運びが容易でかつ丈夫である
- (4) 長時間連続使用できるバッテリーを備えている
- (5) 4年間の故障に対する補償がついている

パソコンは精密機械ですし、ソフトウェアも複雑であり、またコンピュータウイルスなどの問題もあって壊れやすいものです。特にノート型パソコンを毎日持ち運ぶとなると、何らかのトラブルが起こる可能性も高まります。学内にはITサポートデスクが設けられ、在学中はそこで故障の修理をいつでも受け付けてもらえるので利用してください。

Column ノート型パソコンの電源を確保しよう

推奨パソコンはバッテリーが長時間使える機種が選ばれていますが、それでも講義が連続で6時間もあった場合は、最後の方で電源が切れて使えないという事態になりかねません。教室の電源コンセントを利用するにも数が限られています。学内には、各机にノート型パソコン用の電源コンセントを用意している教室もありますが、多くはそうした設備を設置できていません。現在のところ学生が取れる最適な対応策は下記の通りです。

- (1) 空き時間に、なるべくこまめにノート型パソコンの充電をしておくこと
 - (2) バッテリーが切れそうときは、なるべく教室の中の電源コンセントの近くの席を確保すること
 - (3) 必要であれば、電源コンセントの延長コードを持っていること
- いずれにせよ、計画的に充電をしておくことをまず第一におすすめします

デスクトップ型のパソコン

デスクトップ型パソコンは、持ち運びができないという大きなデメリットがありますが、ノート型に比べていくつかのメリットもあります。

- (1) 価格のわりにノート型に比べてCPU等の性能が高性能であり、大規模な計算処理が必要な動画の編集や高度な画像の処理、あるいは複雑な科学技術計算を行うのには適しています。
- (2) 最近では大型の液晶モニターが安価に購入でき、それを接続すれば作業性は向上します。
- (3) 必要に応じてハードディスクを増設したり、DVDディスクを新しいブルーレイディスクに入れ替えたり、動画のキャプチャ機能を追加したりなどが比較的安価で容易にできるという拡張性に優れています。

一方で、「持ち運びができない」という大きなデメリットがありますので、小型で軽量のノート型パソコンと併用するのが大学生活では一般的でしょう。その場合、2つのパソコンの間でデータや作成したファイルの同期を取ることが必要ですが、最近ではdropboxやSugarSyncなどに代表されるオンラインストレージサービスを利用することで自動的に同期する方法が普及してきました。こうしたオンラインストレージサービスはパソコン間だけでなく、スマートフォンなどともファイルを同期することができるために、複数の情報機器を所持している者にとってこれを使いこなすことは非常に有用です。

タブレット型の情報デバイス

最近では、スマートフォンやiPadに代表されるようなタブレット型の情報デバイスの普及が急速に進んでいます。こうした機器は、軽く操作方法も簡単で、Webの閲覧やメールの送受信、資料の閲覧などには十分に利用できます。

ただし、基本ソフトがiOSやAndroidなどの独自のOSなので、Windowsのソフトウェアはそのまま利用できません。また、キーボードはタッチパネルを利用したもので、本格的なキーボードに比べると高速なタイピング等には向きません。

したがって授業で使う資料の閲覧やネット検索には使えますが、文書やプレゼンテーション、表計算などの編集・作成・処理等には、まだパソコンにはかないません。あくまでもサブマシンとしての利用に限られます。

一方で、こうした機器のもう一つの目的は、書籍や雑誌などのオンラインでの入手と閲覧の機能です。それらの書籍や雑誌を膨大な冊数保存することができます。いずれ近い将来には、大学の教科書の多くがiPadやAndroidタブレットに入っていて、大学にはそれだけを持ってくればよいという時代が来るかもしれません。